

「鬼捕り」　仲筋民俗芸能保存会

ゆがふ館だより

2026.11.15 No.80
発行：〈特〉たきどぅん
Tel：0980-85-2488　Fax：0980-85-2489

今日のテードゥンムニ

キョンギン

狂言。演劇。芝居。石垣方言キョンギン。
首里方言チョーギン

『竹富方言辞典』より

芸能の島と称される竹富島。
キョンギンは専ら男性が演じます。
キョンギンを大別すると、
例狂言（ジーキョンギン）と笑し狂言（バラシキョンギン）があります。
ジーキョンギンは、毎年神前に奉納されることが決まっている恒例の狂言のことをいい、
バラシキョンギンは、笑わせる狂言のことで、神前でも奉納されます。これは、神と共に笑い、福を頂く予祝の意味があります。



種子蒔（仲筋民俗芸能保存会）



芋掘り狂言（竹富結願祭狂言部）

イベント開催のお知らせ

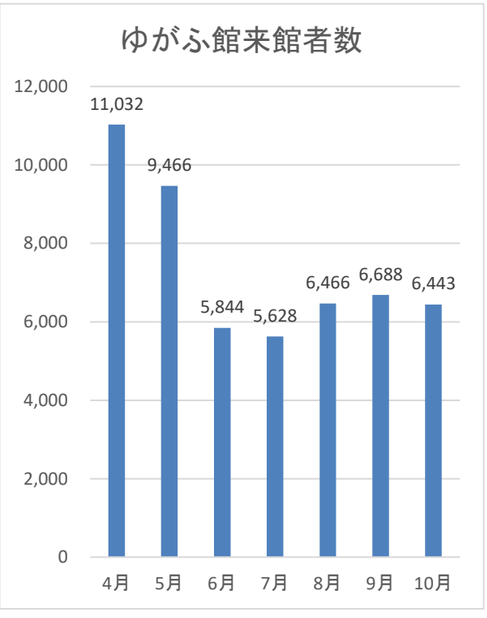
○　学習会「竹富島ウォークラリー」
日　時：令和８年 12 月 13 日（日）
午前 11 時～13 時まで
講　師：上勢頭立人氏（喜宝院蒐集館長）
参加料：無　料

○　ゆがふ館 内覧会
日　時：令和８年 12 月 16 日（水）
14 時 00 分～16 時 00 分
令和８年 12 月 17 日（木）
10 時 00 分～12 時 00 分
14 時 00 分～16 時 00 分

参加ご希望の方は、是非ともゆがふ館へお問い合わせください！



ゆがふ館来館者数



編集後記：
今年のタナドゥイも盛大に挙行されました。奉納の翌日は、「精も魂も尽き果てる」という表現が最もしっくりくる感覚ですが、たよりを書きながら、気持ちは既に来年のタナドゥイに向かっています。（ta）

己丑（つちのとうし）種子取祭６日目　ンガソージ（大精進の日）

戊子の日に蒔いた種子がしっかりと根付くよう静かに見守る日。とはいえ奉納は翌日。世持御嶽でも準備が始まります。供物小屋では供物の準備、座待（雑務を担う）や音響係は会場設営の最終チェックを行います。この日は、一年間でもっとも島全体が落ち着かない日と云えます。夜にはシクミ（稽古総見）があり、石垣、沖縄、東京の各郷友会長も合流し、狂言、舞踊の奉納メンバーの緊張感は最高潮に達します。


奉納芸能の舞台となる世持御嶽


玻座間民俗芸能保存会のシクミ

庚寅（かのえとら）辛卯（かのとう）種子取祭７、８日目　奉納芸能初日・２日目

奉納芸能初日は祖神の根原金殿（ネーレカンドゥの）願い日。蒔いた種子が発芽するよう願う「バリビルの願い」をはじめ数々の儀式が行われます。今年は、玻座間村（東集落・西集落）の芸能を主に３０演目が奉納され（彌勒・庭の芸能を含む）、夜にはユークイ（世乞い）が集落ごとに行われます。

奉納芸能２日目は祖神の幸本節瓦殿（コントゥフシガーラドゥン）の願い日。発芽した種子の生長を願う「ムイムイの願い」のほか数々の儀式が行われたのち、仲筋村の芸能を主に２８演目が奉納されました（彌勒・庭の芸能を含む）。午後は小雨が落ちましたが総じて天候にも恵まれ、いずれの日も多くの観光客が世持御嶽を訪れていました。


世曳き（玻座間民俗芸能保存会）


シドゥリャニ（仲筋民俗芸能保存会）

壬辰（みずのえたつ）種子取祭９日目 支払議会　／　癸巳（みずのとみ）種子取祭１０日目

９日目　早朝より 18 歳から 69 歳の男性が、奉納芸能の余韻が残る世持御嶽の幕舎の片付けがありますが、降雨の影響で延期。また、8 時 30 分より経理係はまちなみ館で精算に取り掛かり、午前 10 時には、島の有志と三郷友会会員との懇親会が開催されました。精算が完了したのち竹富公民館議会（支払議会）が開催され、種子取祭の収支報告、決算の承認、懇親会で挙げられた様々な意見が報告されます。支払議会が終了することで、種子取祭の全日程が終了します。

１０日目　タナドゥイムヌン（物忌）。安息日。1956 年（昭和 31）より省略されています。

２０２６．１１．１５　　ゆがふ館だより　　No.８０

甲申（きのえさる）種子取祭初日　トゥルッキ

種子取祭が近づくと島民が最も気にかけることは、「自身の体調管理」。
種子取祭の配役が決定するトゥルッキの儀式後は、種子取祭を終えるまでは自らの役目を果たさなければなりません。そこで、ケガや風邪をひかないように島民は最善を尽くします。儀式は、狂言を担当する玻座間民俗芸能保存会、仲筋民俗芸能保存会。舞踊を担当するあいのた会、いんのた会、仲筋会の５カ所で執り行われます。


トゥルッキの儀式（いんのた会）写真提供：新田長男氏

乙酉（きのととり）、丙戌（ひのえいぬ）、丁亥（ひのとい）種子取祭２～４日目

種子取祭の配役を頂いた島民は、それぞれの役割を全うするために準備を始めます。
体調管理は勿論のこと、舞踊、狂言を奉納するメンバーは稽古に励みます。
祈願の前日にあたる４日目の夕刻は、島民総出で世持御嶽の清掃に勤しみます。今年はにわか雨が降りましたが、島の皆さんによって世持御嶽はきれいになりました。

戊子（つちのえね）種子取祭５日目　祈願・幕舎張り

チチヌニヌ タニドゥル（つちのえねの種子取祭）と称する通り、種子取祭で最も重要な一日がこの日にあたります。各家庭では、床の間にススキと力草を花器に活け、重箱に粟または米、御酒と真塩を飾ります。畑ではタニウラシの儀式を行います。18 歳から 69 歳までの男性は、早朝より奉納芸能の舞台となる世持御嶽に幕舎を張った後、ユークイに向けてそれぞれの集落の道路を整備します。

神司は、六嶽の神々に 2 日後に世持御嶽にて芸能が奉納される旨ご案内します。その後、神司は、祭主の公民館役員と共に、玻座間御嶽、世持御嶽、清明御嶽、根原屋を祈願します。祈願後、副館長、主事は参詣の儀式の準備を進めます。

狂言を奉納する男性陣の疲れのピークは大体このあたり。前日の世持御嶽の清掃、早朝の幕舎張りから参詣の段取りや自宅床の間の飾付。そして、夜は稽古です。





令和八年度「種子取祭」について

国の重要無形民俗文化財に指定されている「竹富島の種子取」は、今年は十一月六日より十日間にわたり挙行されました。毎年数々のドラマが生まれる種子取祭。さて、今年のタナドゥイは、どうだったのでしょうか。